

日交研シリーズ A-750

平成 30 年度自主研究プロジェクト

「自動車関連税の同時最適化による都市自動車交通マネジメント：
都市空間とトリップ長の異なる交通の考慮」

刊行：2019 年 6 月

主査：河野達仁（東北大学教授）

Tatsuhito Kono

自動車関連税の同時最適化による都市自動車交通マネジメント：
都市空間とトリップ長の異なる交通の考慮

Simultaneous optimization of car-related taxes considering in a city

要 旨

日本では現在、自動車の購入・保有・利用に、様々な税金（例。燃料税、自動車保有税）が課せられている。これらの自動車関連税はそれぞれが自動車の取得や利用に影響を与えるため、強い相互作用がある。そのため、これらの税率を同時に最適化する必要がある。さらに、走行距離に応じて支払額の変化する燃料税と走行距離に依存しない自動車保有税は都市空間の各居住者に与える影響が異なる。そこで本研究では、都市空間を考慮の上、自動車利用選択を内生化したモデルを用いて定量分析を行い、燃料税と自動車保有税の効率的水準を求める。考慮した市場の失敗は、混雑、環境外部性、財政の社会的限界費用である。定量分析の結果、燃料税の効率的水準は 132 円/ℓ、自動車保有税の効率的水準は 80,300 円/年と求められた。

キーワード：最適課税、財政の限界費用、外部性、都市空

Keywords : optimal taxation, marginal cost of financing, externalities, urban space